

1 メタバースヨコスカ グランドオープン&3Dアイテム配布開始

市長

本日、本格始動する、「メタバースヨコスカ」について説明します。

横須賀市は、都市魅力の発信や観光PRを目的として、メタバースを活用いたします。

今回の始動では、たくさんのクリエイターの皆さんとタグを組み、3つの事業がスタートします。

1つ目は「ドブ板&三笠ワールド」の公開

2つ目は、横須賀らしさ溢れる、「スカジャン」などアイテムの無償配布

3つ目は、11月4日に開催されるオープン記念イベント「メタスカVRフェス」の開催です。

詳細は、のちほど説明させていただきますが、まず、横須賀の代表的な観光地でもあるドブ板と三笠が、現実とはまた一味違った、幻想的なワールドとして登場します。

また、VRユーザーが、自身のアバターで思わず着用したくなるようなカッコイイスカジャンを、3Dアイテムとして無償配布することで、スカジャン、ひいては横須賀のPRも図りたいと思っています。

この規模でのアパレルコラボや、アイテムの無償配布は、全国初の試みと聞いており、大変期待しております。

そして、11月4日のフェスでは、VR界で勢いのある、新進気鋭のバンドの方々にご参加いただき、イベントを盛り上げていただきます。

横須賀のワールドが、日々、様々な才能を持った方々が訪れるコミュニティの場となり、新しいアイデアや文化、そして横須賀の魅力の発信の場となり、観光PRにもつながっていくことを目指していきます。

私からは、以上です。

文化スポーツ観光部プロモーション担当課：担当者による説明

メタバースを活用した都市魅力の発信や、観光PR推進を目的とした事業をスタートします。

一つ目は第一弾として、「ドブ板&三笠ワールド」をオープンします。

二つ目は、横須賀らしさを詰め込んだアバター、3Dスカジャン及び3Dアイテムを本日18時より無償配布します。

最後に、このオープンを記念して、音楽イベントを11月4日に実施します。

それでは詳細の説明の前に、メタバースやVRでよく使われる基本ワードについて、説明します。まず、「ワールド」についてです。

こちらは別次元の世界のことを示しています。VRのプラットフォームの中には、いくつもワールドがあります。個人や企業が作ったものを自由にアップロードできて、だれでも遊びに行くことができます。謎解きワールドやホラーワールドなど、ジャンルは様々です。

二つ目は「アバター」についてです。

こちらは、ワールドで活動するためのツールです。ユーザーはこのアバターとなってワールドにログインします。人型だけではなく、さまざまなアバターが存在しています。

最後に、「アイテム」についてです。

アバターに着せ替えるための洋服は、季節やワールドごとに変えることができ、ユーザーの数多くの方が着せ替えを楽しんでいます。最近では現実のアパレル企業の進出もあり、非常に盛り上がっている分野です。

続きまして、VR・メタバースの最近の動向についてです。(資料3ページ)

ニュースサイトによると、VRユーザー数、こちらはVR機器を持っていて、VRゲームなどを楽しんでいる人が世界中に1億7千100万人いると推定されています。

市場規模は、2025年までに約12億ドル以上に達すると予想されています。

また、今回メタバースヨコスカで採用しているプラットフォーム、VRChatのアクティブユーザー数は、4万2千人に到達しています。

このようなことから、PRする場としてVR市場に魅力を感じ、今回の取り組みにつながりました。

それでは、メタバースヨコスカの全体の取り組みをご紹介します。(資料4ページ)

まずは左上、青い枠をご覧ください。

メタバース空間では、ワールドの作成を行い、アバターの活動する場を提供し、コミュニティづくりをめざします。今回はドブ板、三笠公園のワールドを公開しました。12月には、猿島をオープンします。また、2月にもアップデートを予定しています。継続的にお客様に楽しんでいただけるような仕掛けづくりをしていきます。

次に、右上、緑の枠をご覧ください。

現実では、メタバースヨコスカの取り組みをまとめたパンフレットを、ドブ板通り等で配布予定です。また、メタバース教育として市内の若年層から社会人を対象に、ブレンダー、ユニティーなどのVRの世界でアイテムを作る技術を教えるスクールを開催いたします。こちらは別途11月頃にプレスリリースいたしますので、改めてお知らせいたします。

最後に、黄色い枠をご覧ください。

こちらはWEB上での取り組みで、アバターやアイテムの配布を無料で行います。本日18時にオープン予定です。

続きまして、こちらが先ほどご紹介した3つの要素の発展普及イメージとなります。(資料5ページ)

ワールドで横須賀を知っていただき、現実での来訪や、パンフレットからメタバースに興味を持っていただくなどの相互誘客や、そこから3Dアイテムを活用していただき、そのアバターが様々な場所で活動することにより、さらなる拡散を狙います。

そうすることにより、観光PRはもちろんのこと、先進的な取り組みをする都市として、都市魅力の向上を目指します。

～10月19日に開催した内覧会の動画の再生～

現実世界の内覧会や記者会見と同じく、まずは職員から挨拶をしてワールドを散策し、囲み取材がありました。この映像に映っているほとんどの方がWEBメディアの方々です。

ワールド内ではこういったグルメが食べられるスポットや、ドブ板ステーションのシャッターが忠実に再現されています。

また、こちらが無料配布するアバターです。このようにメタバースの中でも、現実と同じような営みが日々行われている世界になります。

それでは、ワールドの特徴をご紹介します。(資料6ページ)

現実をそのまま再現したものではなく、少し未来の横須賀をイメージしています。ふらりと立ち寄っていただいて、自然とコミュニティが出来上がるような、そんなワールドを目指しています。メタバースの空間は新しい体験をしようとするのではなく、お友達とどこかに行くことや、コミ

コミュニティの場として根付いているという現実がありますので、そういうコミュニティに受け入れられやすいようなワールドの制作を心がけました。

特徴といたしましては、通常このクオリティのワールドでは、高性能PCがなければ行けないことが多いのですが、こちらのワールドは Meta 社（旧 Facebook 社）から出しているVRヘッドセットである「メタクエスト」単体でも行けるワールドで、間口を広げて多くの方に楽しんでいただける工夫をしています。

ご当地グルメを食べることができたり、三笠に乗ったりすることができます。

また、このワールドは一般の方にも自由に使っていただきたいと考えており、イベントの開催や、配信など多くの方に利用いただきたいと考えております。こちらについては、後程詳細をご説明いたします。

このワールドは今年度中にも何度かアップデート予定で、冬には猿島ワールドをオープンする予定です。ドブ板&三笠ワールドはコミュニティ中心となっていますが、猿島はミニゲームなどで遊べるワールドにしていきたいと思っています。

続きまして、ドブ板&三笠ワールドの楽しみ方、グルメ編のご紹介です。（資料7ページ）

こちらは、ドブ板通りにあるダイナーと、レストランです。

お店に入るとヨコスカネイビーバーガーを作ることができるセットがおいてありますので、ユーザーはパティを焼くなどして、バーガーを作って、食べることができます。

また、カレー屋さんでも、スプーンを持つと食べることができる仕掛けがあります。横須賀の雰囲気味わえる観光スポットとして、皆さまに楽しんでいただきたいと考えております。

次にこちらは、スカジャン屋さんのご紹介です。（資料8ページ）

ドブ板通りにはスカジャン屋さんがあります。こちらには、今回配布するアバターや、スカジャンなどを展示しています。

人気クリエイターのみなさまの素晴らしい技術をここで見ることができます。

スカジャンデータは、公式サイトや、Booth（ブース）と呼ばれるダウンロードサイトにて配布予定です。カラーバリエーションもたくさんありますので、それぞれ個性のあるスカジャンができると思います。

ドブ板通りを奥に進むと、三笠公園があります。（資料9ページ）

この記念館三笠はすこし浮いており、乗ることも可能です。

また、記念館三笠の前には大きなステージがあります。こちらのステージで、本日 20 時よりお披露目を開催予定です。

ステージについては、様々な方にご活用いただきたく、現実の三笠公園のステージのように、どなたでも気軽に使えるステージとして、広く周知していきたいと考えています。申請不要で、いつでもイベント実施が可能です。市へお知らせいただいた場合は、公式Xなどで告知のお手伝いなどができればと考えています。

～初公開となる三笠公園、記念館三笠内部、スカジャン屋の画像を紹介～

続きまして、無償配布アイテムについてのご紹介です。（資料10ページ）

無償配布するのは、第一弾としてオリジナルアバター、スカジャン3Dモデル及びグルメです。今回オリジナルアバターは洋服や靴などすべてセットとなり、スカジャンを着たメンズ・レディースの2種類を配布いたします。

また、スカジャンの柄やカラーは自由に改変可能で、オリジナリティを演出することも可能です。スカジャン3Dモデルにつきましては、大きく分けてメンズ・レディースの2種類と、柄や色など様々な組み合わせ16種類をご用意いたしました。対応アバターは15種類です。

さらに靴やアクセサリなどの付属品もごさいます。これだけでコーディネートが完成するクオリティです。

グルメについては、よこすかポートマーケットさんにご協力をいただき、現実で出店している店舗のいくつかを再現したのも、今回、Booth（ブース）で配布する予定です。

続きまして、対応アバターのご紹介です。（資料 11 ページ）

こちらが対応アバターといいまして、3Dスカジャンについても様々なアバターがあります。肩幅が違ったり、丈が違ったりしており、この人気のアバター15体とコラボし、すぐにダウンロードして着せられるような工夫をして、多種多様なサイズ展開をしました。

より多くの方に楽しんでいただけるのではないかと期待しています。

続きまして、イベントのお知らせです。（資料 12 ページ）

メタバースヨコスカのオープンを記念して、「メタスカVRフェス Vol.1」を11月4日20時より、開催いたします。イベントの参加方法は、公式Xアカウントで告知していきます。

ライブとVRは相性が良く、リアルタイムの音源をVRワールドに同期させることにより、新しい形のライブの実施が文化として定着しています。数多く実施されているイベントに出演経験があり、今、VR界で勢いのあるバンドの方々にお越しいただく予定です。

最後に、今回の取り組みに携わった多彩なクリエイターの皆様のご紹介です。（資料 13 ページ）

彼らはメタバースの中で、個人的に活動している方が多く、本当にすばらしい技術の持ち主です。そういった方々と作り上げることにより、VRChatユーザーに受け入れられやすい内容にできあがったと感じています。

説明は以上です。

■質疑応答

記者

制作費はどれくらい掛かりましたか。また、メタバースを活用した都市の魅力発信という他市の事例がありましたら教えてください。

文化スポーツ観光部長

今年度、制作費は4千500万円です。財源内訳は、半分の2千250万円が国からの交付金です。残りは一般財源と合わせて、企業版ふるさと納税において、前向きなお話をいただいていますので、ぜひ、そちらも活用させていただきたいと思っています。

他都市の事例については、私どもが承知している限りでは、兵庫県養父（やぶ）市や沖縄県などが観光PRに活用しています。観光とは違った活用としては、静岡県藤枝市は地元企業のVR上の商談会、そのほかふるさと納税のPRに活用している自治体もあります。

記者

今回、アバターを無償で配布するということでした。アパレルが5,000円ぐらいで売れるといったお話が説明の中であったように、今後、アイテムを有償で販売することや、ふるさと納税の返礼品で提供することなどを考えていますか。

文化スポーツ観光部長

今回のメタバースの活用目的は、たくさんの方に横須賀市のワールドにお越しいただいて、さらに、横須賀ならではのアイテムを使っただいいて、それをワールドの中で広めていくということが目的です。したがって、当面の間は全て無償で配布し、アイテムを使って他のワールドに展開していただきたいと思っています。

記者

初年度にはどれくらいの方に来てもらえればいいのかという目標はありますか。

文化スポーツ観光部長

KPIを定めています。

一つ目として、WEBサイトでアイテム等を配布しますので、このWEBサイトへのアクセス数です。初年度は2万アクセス、将来的には倍の4万アクセスを目指したいと考えています。

二つ目として、今回無償配布させていただくアイテムの露出件数です。今年度は20件、将来的には30件を目指したいと考えています。

露出とは、例えば、今回、配布するスカジャンと合わせてVR界のアバターが使用できるインナーなどが開発されます。そうすると、このスカジャンと合わせて、アイテムがメタバースの世界で展開されます。このような流れで横須賀市のアイテムが、他のアイテムと重なってさらにPRされる、そのようなイメージです。

そのほか、今後、満足度や観光地としての魅力などのユーザーアンケートをとりたいと思っており、これは50%以上を目指していきたいと思っています。

このようなものをKPIとして持っています。

記者

先ほどの説明では、動画として、映像が流れていた感じでしたが、メタバースの世界では、同じように映像が動くというものなのか。

文化スポーツ観光部長

ワールドの中に入ってもらくと、先ほどの内覧会の動画がありましたように、あのよう動きながらいわゆる動画のように見える世界が展開されています。

市長

仮想空間の中に入ってもらって、新しい世界でみなさんが様々なグッズを使いながら色々なことを展開できるという仕組みです。

そして、フィードバックとして現実の観光拠点に来てもらう。また、いわゆるひきこもりの方たち、社会参加が難しい方たちに積極的に参加していただくということが社会的に大きな意義あると思っています。その2点で、ぜひ進めていきたい。

自分で新しいアバターを作ったりして、自分のアイデンティティがワールドの中で、どう発展していくかなどを創造的に考える新しい空間になっていくのではないのでしょうか。

現実の中で、様々なものとうまく向き合うことが難しい方たちが、様々な経験をして、生きる場所を見つけてもらえればと思っています。

聞きなれない用語が多く、イメージしにくいところがあるかもしれません。

これから発展していく領域です。社会貢献にもなれば、と思っています。

記者

今回の横須賀市の取り組みはすべて無料ということよろしいですか。

文化スポーツ観光部長

はい。そのとおりです。

記者

それでは他自治体はどうなのでしょう。

文化スポーツ観光部長

PRについては当然無料で展開をされているようですが、アイテムなどを無償で、この規模で配布させていただいているのは、ほとんど事例がないと認識しています。

記者

市内事業者への還元についてお伺いします。現実世界で観光に来ていただければ、市内事業者への還元になると思いますが、仮想空間の世界内での市内事業者への還元というものはありますか。

文化スポーツ観光部長

メタバース世界の中で楽しんでいただくことによる市内事業者への還元というものは、横須賀市の仕組みの中では今のところありません。

あくまでも、現実世界で横須賀にお越しいただいて、そこでの還元になると思っています。

市長

むしろ現実の世界をメタバースに近づけるような工夫ができるのではないかと考えています。現実ではうまくいかないことでも、メタバースの世界でできたことを現実世界にフィードバックして、現実を面白いものに変えていくことができるのではないかと考えています。

記者

プラットフォームとして選ばれたVRChatの同時接続ユーザーが4万2千人というのは、おそらくグローバルの数字だと思いますが、国内ではどれくらいのユーザー数がありますか。

また、行政に強い事業者さんだと大日本印刷さんや、トッパンさんがあると思います。メタクエストを持っている方もまだ少ないという印象があります。そういった中で、VRChatを選んだ選定理由は何ですか。

文化スポーツ観光部長

日本国内でのユーザー数は、4万2千人のうち12.3%です。(https://realsound.jp/tech/2023/02/post-1247650_2.html (ニュースサイトより))

VRChatの選定理由は、汎用性が高いことが理由です。

先ほどご説明したように、今回は、たくさんクリエイターの方々にご協力をいただきました。VRChatでは、有名なクリエイターの方々が多く活動されており、これも選定理由の一つとなっております。また、ワールドやアイテムのアップロードが比較的手軽に行えるということで、VRChatを選定いたしました。

市長

メタバースの世界の中で作られているスカジャンなどを、現実世界で作る。こういったことのように現実世界にフィードバックすることで相乗効果につながると思っています。

文化スポーツ観光部長

メタバースの世界の中でもデザインを作ると、現実世界と同様に著作権などの権利が生まれます。著作権を持っている方が現実世界で作ることは問題ないと思いますが、別の方が利用する場合は、ルールがあると思います。

市長

メタバースで使ったものを現実世界で使いたいという方も出てくると思いますので、そのあたり

も考えながら進めていきます。

2 横須賀市長の訪米報告について

市長

今月の9日から18日までの10日間に渡り、米国のノーフォーク海軍基地、ワシントン DC の国防総省（ペンタゴン）及び米海軍原子力推進機関部、ホノルルのパールハーバー基地を訪問してまいりました。

ご承知のとおり、原子力空母ジョージ・ワシントンが、来年後半に、横須賀に配備される予定です。

今回の訪米では、実際にジョージ・ワシントンを視察するとともに、原子力推進機関部長のコールドウェル大将をはじめとする、米海軍の関係者に対し、これまでと同様に、米国の厳しい基準による運用が厳格になされ、高い透明性が確保されること、そして安全性については、引き続き万全の対策がとられることについて、確認いたしました。

実際にジョージ・ワシントンに乗艦した際には、艦長のガウト大佐自ら、空母の艦内を詳しく案内していただきました。

そして、乗組員の方々の前でスピーチを行い、原子力空母が横須賀市民の理解を得ながら、引き続き安全に、そして安定的に運用されることは極めて重要であり、そのためにも、これまでと同様に、米国の厳しい基準による運用が厳格になされ、その安全性について、引き続き万全の対策がとられるよう、お話したところです。

ただ今ご報告させていただいた内容の他、原子力推進機関部／創立 75 周年記念事業の一環として、原子力推進機関部において、スピーカーを務めさせていただき、同機関部に勤務する軍人・技術者などの文官に対しても、空母の運用について、米国の厳しい基準による運用が厳格になされ、高い透明性が確保され、その安全性について、引き続き万全の対策がなされるよう、要望いたしました。

また、国防総省（ペンタゴン）での、米海軍の中枢を担う、エリック・レーブン米海軍省海軍次官、リサ・フランケッティ米海軍作戦副部長との意見交換では、米海軍と海上自衛隊との「友情と同盟の重要性」、そして日米同盟において、世界で唯一、米国以外で原子力空母が配備されている横須賀の重要性について、言及があったところです。

以上、経過を簡単にご報告しましたが、今回の渡米を通して、再認識したことがあります。

それは、自治体の首長という立場だけではなく、「人と人同士の信頼関係・つながり」が、いかに大切なものであるかということ。米国を訪問することで、これを身をもって実感した次第です。

そういった意味では、今回の渡米は、これから未来に向けても続いていく、横須賀市と米海軍とのパートナーシップにとって、極めて有意義なものになったのではないかと強く思っています。結びになります。今回の渡米において、最大限のサポートをしていただいた、外務省、在米日本大使館、在日米海軍の関係者の皆様に、心から御礼を申し上げます。

私からの報告は以上になります。

■質疑応答

記者

ロナルド・レーガンの出航がたびたび延期されたということがありました。今回の訪米において、その出航延期の理由について、横須賀市から関係当局に確認をしましたか。また、確認していれば、どんな回答がありましたか。

次に、今回の訪米の参加人数及び予算とその内訳を教えてください。

最後に、今回の訪米の報告書を作成し、公表する予定はありますか。また、議会への報告予定は

ありますか。

市長

まず1点目のロナルド・レーガンの出航延期については、米側の運用に関することであり、理由については聞いていません。

2点目、今回の訪米の人数は私を含めて5人で、経費は約1千万円です。なお、在日米海軍にもご同行いただきましたが、その経費は米海軍持ちです。

市長特命参与

3点目の報告書については、海外出張ですので、用務経過を含めた復命書を作成する予定です。

記者

その復命書は、市議会に報告するものでしょうか。

市長特命参与

内部的な資料です。今のところ公表する予定はありません。

記者

今回の訪米の予算は議会で採決されているものでしょうか。

市長特命参与

今年度の当初予算として、既に市議会で採決されたものです。

記者

約1千万円の内訳を教えてください。

市長特命参与

まとめた資料を後ほどご提供します。

記者

ジョージ・ワシントンに乗られて、乗組員の方に対してスピーチをしたという報告を拝見しました。乗ったとき、これから横須賀のチームだと思いうという発言をされていたと思うんですけども、どういのお気持ちで乗組員の方に対してスピーチしたのでしょうか。

市長

これから横須賀での任務に就くにあたり、乗組員の方はおそらく不安を抱えていると思います。まずはその不安を払拭してあげたい。そして、日米同盟の拠点である横須賀の市長として、ぜひ横須賀を第二の故郷と思っていただきたい。歓迎しますということを伝えました。

次に、透明性や安全性を確保し、十分な安全管理のもと来ていただきたいということ。

そして、日米のパートナーシップのためにも日本の文化や風俗を学んでいただいて、みなさんにはご理解のうえ、横須賀で生活していただきたいという思いであいさつをいたしました。

とりわけ、艦長が私と同じ誕生日であったということもあり、意気投合し、横須賀で日米のために尽くしたいという共通の思いをお話しいただいたので、非常に実りが多かったと思っています。

記者

先ほどの市長の冒頭の発言で、非常に有意義なものになったというところだったと思うんですけど

ども、横須賀と米海軍の関係性はより強固になったものだと感じますか。

市長

当然だと思います。やはりマインドが大事だと思っています。人間関係は立場や制度を超えて、人と人との信頼関係が重要だと思います。

信頼関係がなければ、少しでも不信感があれば、どんなことを言ったとしても、うまくいかなくなってしまいます。今回の訪米では、がっちりとハートを掴んできたと思います。

記者

ジョージ・ワシントンの交代のスケジュールについて何か言及はありましたか。

市長特命参与

ジョージ・ワシントンの入港については、来年の後半ということでした。また、乗組員の家族については来年の1月ころから徐々に移動が始まるというような説明を受けました。

記者

来年の後半ということですが、もう少し具体的な日程について言及はなかったのでしょうか。

市長特命参与

来年の後半という以上の説明はありません。

記者

乗組員の家族の人数についての説明はありましたか。

市長特命参与

乗組員の家族の大半が移動することになるという説明がありました。徐々にということでしたので、来年の1月ごろから移動が始まる。家族の全体の人数についての説明は受けていません。

記者

ジョージ・ワシントンは修理をして、再び横須賀に来るということだと思います。修理内容やバージョンアップしたものの説明はありましたか。

市長特命参与

このジョージ・ワシントンの整備は「RCOH」という言い方をしています。

Refueling Complex Overhaul（リフュージング・コンプレックス・オーバーホール）の略で、燃料交換と大規模整備ということでした。これは、2017年8月に開始されたそうです。本来、2021年8月に完了する予定でしたが、コロナの影響により、2023年5月まで延長されたということです。RCOHの作業については、まず船の2基の原子炉の燃料交換、そして艦内のシステム、ネットワーク、インフラを大幅にアップグレードしました。

用語が難しいのですが、具体的に言うと、コマンドコントロール、コミュニケーション、コンピュータ、情報・監視・偵察システム、兵器システム、レーダー等が大幅に改良されたという説明を受けました。

市長

燃料交換も厳密に安全に行われたという説明をコールドウェル大将から受けました。

記者

艦載機については、今よりも高性能なものが乗るといったような話がありましたか。

市長

艦載機については米側の運用になりますので、ここでのコメントは控えさせていただきます。

記者

ロナルド・レーガンの乗組員は約 5,000 人だったと思います。そのうち、約 2,000 人が航空部隊ですから、この方たちは移動しないと思います。

残りの約 3,000 人の方の中には、ロナルド・レーガンからジョージ・ワシントンに移るがあると思いますが、その人数はどれくらいですか。

市長特命参与

仰るとおり、ロナルド・レーガンの乗組員とその家族が、そのままジョージ・ワシントンの乗組員、家族となり、そのまま横須賀市にいるということはあると思います。

ただ、その具体的な人数は、ロナルド・レーガン、ジョージ・ワシントンの2つの艦で調整をしているという説明を受けました。

記者

兵器システムのアップグレードというお話しでしたが、どのようなものが新たに装備されたのかわかりますか。

市長特命参与

運用的、専門的などところについては、詳しく伺っていません。

少なくとも、推進プラント機器、戦闘システム、船内ネットワークのインフラは、大幅にアップグレードされたという説明を受けました。

記者

市長のご説明の中で、原子力艦の安全性については確認したと仰いましたが、その根拠を示していただけますか。

市長

具体的な根拠と言われましたが、私は専門家ではありません。

75 年間原子力艦の事故がないこと、これだけのスタッフがいて、このような部署があり、努力をしているという説明を受けました。全力で安全のために取り組んでいくという米側を信用しています。私がスピーチをしたときに、それを確信してきたとご理解いただければと思います。

記者

税金 1,000 万円を使って行った訪米について、市長は人と人の関係が大事であると市長は熱く語っていましたが、我々はそれを見ていないし聞いてもいません。

原子力空母がそこに浮かんでいるということは、危機管理の観点からも一定の説明は文章にして公開した方が良いと思いますがいかがでしょうか。

市長特命参与

記者クラブのみなさまのご要望ということなのかもしれませんが、これまでは、復命書を作成するということでの帰国報告をしていました。今回のことについては、これから議会への報告も含

めて、考えていきます。

記者

細かい点になりますが、ジョージ・ワシントンの整備は終了しているということによろしいでしょうか。

市長特命参与

RCOH自体は終わっているということです。

ただ、RCOHが終わった後に受ける様々な認証がいくつか残っているという説明を受けました。

市長

さきほどの話に戻りますが、RCOHがどのように行われたかという米軍の報告を受けて、納得したという以上の根拠はないんじゃないでしょうか。

記者

市長特命参与からも用語が難しいという発言もありましたが、我々も難しい用語を使った説明を聞いて、「なるほど」とはならないのです。ある程度、市側で咀嚼して、一般の人にもわかるようにきちんと報告書でやるべきだと私は思います。

市長

わかりました。

記者

来年の後半に日本に到着するというのですが、ノーフォークを出航する時期というものは聞いていますか。

市長特命参与

そのスケジュールも含め、正式なものはまだ伺っていません。

当然、出航までの間にロナルド・レーガンとジョージ・ワシントンの交代式も行われるでしょうし、そうしたスケジュールについても今回は説明を受けておりません。

記者

在日米海軍、第七艦隊から同行者が5人いらっしやっただのことでした。手厚いフォローであると思います。具体的に、日本から同行した米側の方々の、市長に対するフォローアップはどのようなものがあつたのでしょうか。

市長

通訳の方が非常に優秀で有能な方でした。日本の感覚も持っていて私の言うことを全て理解し、さらに想いを付け加えて話をしていただいた。

米側に常に同行していただけたということは、米海軍にとっても信用信頼が厚かったということと、アポイントなど間を繋いでかなりいろいろな意味でのサポートをしていただいた。非常に手厚いサポートでした。

■ 案件以外の質疑
(記者からの質疑なし)